

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 24 年 9 月 20 日 (2012.9.20)

【公表番号】特表 2010-538626 (P2010-538626A)

【公表日】平成 22 年 12 月 16 日 (2010.12.16)

【年通号数】公開・登録公報 2010-050

【出願番号】特願 2010-524414 (P2010-524414)

【国際特許分類】

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

A 0 1 H 5/00 (2006.01)

C 1 2 P 19/26 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 5/00 1 0 3

A 0 1 H 5/00 Z N A A

C 1 2 P 19/26

C 1 2 N 15/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成 23 年 9 月 8 日 (2011.9.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 5】

植物を産生するための方法であって、以下を含む

a) 植物細胞の遺伝的改変、ここで遺伝子改変は以下の工程 i ~ i i i を含む

i) グルコサミノグリカン合成酵素の活性を有するタンパク質をコードする核酸分子の植物細胞中への導入

i i) グルコサミン 6 - リン酸アセチルトランスフェラーゼの活性を有するタンパク質をコードする核酸分子の植物細胞中への導入

i i i) U D P - N - アセチル - グルコサミンピロホスホリラーゼの単機能性活性を有するタンパク質をコードする核酸分子の植物細胞中への導入

b) 工程 a) i 及び / 又は a) i i 及び / 又は a) i i i からの植物細胞からの植物の再生 ;

c) 適宜、工程 b) の植物を使用したさらなる植物の生成、

ここで工程 a) i ~ a) i i i は任意の順番で個々に行うことができ、又は、工程 a) i ~ a) i i i の任意の組み合わせを同時に行ってよく、適宜、工程 a) i ~ a) i i i の失われた外来核酸分子を、工程 b) 又は c) に従って得られた植物の植物細胞中に導入してよい。